

(別紙5)

補助事業番号 25-2-021  
補助事業名 平成25年度障害のある人が幸せに暮らせる社会を作る活動補助事業  
補助事業者名 一般社団法人 全国肢体不自由児者父母の会連合会

## 1 補助事業の概要

### (1) 事業の目的

#### ①障害児者と家族、支援者のための指導誌の発行

障害者の父母は自身の高齢化や、二次障害や障害の重度重複化などによる介護に追われている。パソコンスキルもない保護者の唯一の情報収集手段は冊子であり、いつでも、どこでも読むことのできる冊子というスタイルで様々な情報を提供することにより、障害児者の自立や社会参加、地域生活に役立てる。

また、障害者の自立や地域生活への移行を後押しするための保護者の役割について考える一助とする。さらに障害当事者とその家族以外の方々に福祉施策や活動を周知する。

#### ②療育キャンプ事業の実施

障害児者は、歩行や座位の訓練だけでなく、集団生活を経験することで社会性や社会的自立心の向上を図る。

保護者には、医師及び学識経験者、専門指導員等により訓練方法や生活指導を通じて、日常生活における療育や訓練方法を習得する。また、肢体不自由児者に対する負担の少ない介護方法を習得し、地域に普及することで介護負担の軽減を図る。

障害当事者と家族、支援者（ボランティア）相互の交流・情報交換を図る。

#### ③地域指導者育成セミナー

障害児者が地域で普通に暮らすことができる環境整備を図るため、地域で中心的に活動するリーダーの養成が急務である。福祉施策の変革にともなう情報や知識を身につけるためのセミナーを継続的に実施してリーダー育成に努め、地域活動の活性化に繋げていく。

(別紙5)

(2) 実施内容 (URL : <http://www.zenshiren.or.jp>)

### ①障害児者と家族、支援者のための指導誌の発行

指導誌「療育ハンドブック」1回、情報誌「いずみ」2回発行。

#### 指導誌

(ア) 平成25年6月18日発行 B6版 58ページ 4,000部発行

「ハンドアーチェリー」で楽しもう！

～三世代で楽しめるレクリエーションスポーツ～

障害者の新しいレクリエーションスポーツを紹介。

ハンドアーチェリーは障害者だけでなく、子供から高齢者まで老若男女が一緒に楽しめるスポーツでもあり、補助具を利用することによって重度障害者も楽しめるものである。



#### 情報誌

(ア) 平成25年6月28日発行 B5版 11ページ 3,000部発行

平成25年度通常総会報告として事業の概要や活動方針、80名が参加し様々なテーマでグループ討議した討議の内容、障害者関係の法律の動きを掲載。

(イ) 平成25年12月28日発行 B5版 11ページ 3,000部発行

全国大会の報告を兼ね、厚生労働省、文部科学省に対する提言とそれに対する質疑応答、記念講演やシンポジウムの概要を掲載。



(ア)



(イ)

(別紙5)

## ②療育キャンプ事業の実施

(ア)

医師や学識経験者、専門指導員による訓練や指導。



### キャンプ(1泊2日)

(ア) 平成25年7月20日～21日 87名

愛媛県 身体障害者福祉センター、友輪荘

(イ)

(イ) 平成25年7月28日～29日 36名

愛知県 伊良湖ビューホテル



(ウ) 平成25年8月9日～10日 53名

愛知県 一宮勤労福祉会館

(ウ)

(エ) 平成25年8月17日～18日 53名

佐賀県 佐賀県波戸岬少年自然の家

(オ) 平成25年10月19日～20日 61名

東京都 戸山サンライズ



### キャンプ(2泊3日)

(ア) 平成25年7月12日～14日 58名

福岡県 夜須高原福祉村やすらぎ荘

(イ)

(イ) 平成25年8月1日～3日 68名

北海道 森のゆ 花神楽



(ウ) 平成25年8月18日～20日 44名

奈良県 椿寿荘

(ア)



(イ)



(ウ)



(オ)

(別紙5)

### ③地域指導者育成セミナー

障害者の地域移行を積極的に推進するため、日常生活の身近な課題である「障害者の住まいの在り方～肢体不自由児者の住まいのあれこれ～」をテーマとして、地域における住まいの場の確保、全国の取り組み、住環境や建築上の課題、制度・施策の現状整理についての講演並びに、参加者によるグループ討議を行った。



(ア) 平成25年7月6日～7日 40名

東京都 中野サンプラザ

(イ) 平成25年7月20日～21日 26名

秋田県 協働 大町ビル

(ウ) 平成25年8月3日～4日 36名

福岡県 さわやかトレーニングセンター福岡

(エ) 平成25年8月24日～25日 27名

北海道 北海道立道民活動センター

(オ) 平成25年10月5日～6日 28名

石川県 加賀観光ホテル

(カ) 平成25年11月16日～17日 36名

広島県 チサンホテル広島

(キ) 平成25年12月7日～8日 42名

京都府 洛西ふれあいの里保養研修センター



## 2 予想される事業実施効果

### ①障害児者と家族、支援者のための指導誌の発行

指導誌は、国が推進している障害者スポーツの中で、本会が重度障害者も参加でき、子供から高齢者まで老若男女楽しめる新しいレクリエーションスポーツとして事業展開をしている「ハンドアーチェリー」について執筆いただいた。

新しいスポーツレクリエーションを周知することができただけでなく、「ハンドアーチェリー」は、地域住民との交流ツールとしても利用されはじめているため、その際の基本冊子として活用された。

情報誌は、本会事業として福祉施策の課題などを検討するため行った、グループ討議の内容や、全国の会員が一堂に会する全国大会において実施した行政説明、シンポジウムなどの報告を掲載した。

全国から様々な立場の方々が参加し議論することで、地域間での違いやそれに伴う課題などが浮き彫りになり、それを冊子にて周知することができた。

### ②療育キャンプ事業の実施

障害者にとって、日々の生活の中で療育や訓練は欠かせないものであり、療育や新しい訓練方法、介護方法の習得は必要不可欠である。

また、現在、国は地域移行を推進しているため、地域で生活するうえで、療育や訓練、介護方法の習得は益々ニーズが高まっている。

専門性の高い講師から直接指導を受けられる機会の少ない地域でも、実施できるように小規模（参加者33名×8か所 264名）で企画していたが、予想以上の反響があり、参加希望者460名にのぼり、ボランティアなどスタッフの動員が困難なほどであった。しかし、参加の保護者の協力を得て、共助することによって事業を実施することができた。

また、学生ボランティアも多く参加いただき、ボランティアの育成の一助ともなった。

### ③地域指導者育成セミナー

障害者福祉の実施主体は市区町村である。そのため地域での活動がより一層重要であり若いリーダーの育成が急務である。

今回は、障害者の生活の場としてニーズの高い「住まい」をテーマに行った。肢体不自由者の住まいとしての「グループホーム」は、他の障害に比べ施策が遅れたことにより、課題も多く周知も進んでいない現状がある。

障害者の住まいのあり方について精通する講師による適切な指導やアドバイス、並び

(別紙5)

に先駆的な事例を紹介したことで、障害者の住まいの選択視を広げるための活動の道筋が共有できた。また事業を通して他県との違いや実情を知ること、地元での活動や気づきにつながり、情報の共有は他県、近隣の地域と連携に繋がった。

### 3 本事業に係る成果物

#### (1) 補助事業により作成したもの

##### ①障害児者と家族、支援者のための指導誌の発行

指導誌「療育ハンドブック」 1冊

情報誌「いずみ」 2冊

### 4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 一般社団法人 全国肢体不自由児者父母の会連合会  
(ゼンコクシタイフジユウジシャフボノカイレンゴウカイ)

住 所： 〒171-0021  
東京都豊島区西池袋4-3-12

代 表 者： 会長 清水 誠一 (シミズ セイイチ)

担 当 部 署： 事務局

担 当 者 名： 宮澤 英子 (ミヤザワ ヒデコ)

電 話 番 号： 03-3971-3666

F A X： 03-3982-2913

E - m a i l： [web-info@zenshiren.or.jp](mailto:web-info@zenshiren.or.jp)

U R L： <http://www.zenshiren.or.jp>